Adventure Rider, jasmine T Cardwell presents

"LIVING MY JOURNEY" 2013 IN THE USA AND CANADA

PHOTO&TEXT／jasmine T Cardwell

jasmine T Cardwell
愛知県豊橋市出身、アメリカ在住のアドベンチャーライダー。2011年にアメリカで自動二輪の免許を取得後、だんなさんのマイケルと2人で過酷なアメリカ旅を続けるスーパーガールズバイカー
HPをcheck！
▶http://www.samurai-rider.com

アメリカはサンディエゴに住む日本人女性、jasmine T cardwellさんが、2013年にアドベンチャーライディングで行った場所を綴ったコラムも今回が最終回。一部重い内容もありますが、これがリアルな旅。目を背けずに見つめなおして欲しいという思いを込めました

第6回（最終回）:延々と続くアラスカのダート…

Hello, everyone!　I am Adventure Rider, jasmine!!　2014年も残りあと僅か。皆さん、今年の目標は達成できましたか？　秋も深まって来た昨今、ライディングには肌寒い季節がやってきましたね。食欲の秋、スポーツの秋、美味しいものを求めてバイクをかっ飛ばし、寒さを吹っ飛ばしましょ〜う！

カナダtoアラスカ『Top Of The World Highway』

いよいよ連載最終回となる今回、最初に紹介するのは、正に世界の頂点を走っているかのような感覚に陥る、「トップ・オブ・ザ・ワールド・ハイウェイ」です！　ここでは究極の絶景が望めます。前号で紹介したユーコン州は、ドーソン・シティを抜けると始まる79マイル（127km）のダート（未舗装）道路で、多くのADVライダーが一度は走ってみたいと願う、憧れの道路として有名です。

アラスカ州へ陸路で向かう場合、ドーソン・シティからはアラカン・ハイウェイ（前号記事参照）を引き続き走るか、またはこのトップ・オブ・ザ・ワールド・ハイウェイを使うかに絞られますが、全てのADVライダーと言っても過言ではないほどが、このトップ・オブ・ザ・ワールド・ハイウェイを選択します!!

ADVライダーをはじめとする、知る人ぞ知るこのトップ・オフ・ザ・ワールド・ハイウェイですが、多くのアメリカ人はこの道路が存在することすら知らないそうです。

ほんの79マイルのライディング。ソフトめなダート道路でも、私にとってはやはり舗装された道路を走るのに比べれば手に汗握り、かなり必死でした。しかも、前を走るマイケルが起こす土埃を後続の私が全て浴び、ライディングギアは土色と化し、くしゃみ＆鼻水が止まらない症状が暫く続き、肉体的にも精神的にもいっぱいいっぱいの状態でした！　しかし移り変わる景色を横目に、「アラスカまで来たんだ〜」という高揚感が身体中を巡りました。

『アラスカ州』（州都：ジュノー）

長い長いカナダ横断を経て、2週間ぶりにアメリカ合衆国内に戻ってきました。と言っても、メインランドから遥か彼方のアラスカ州。州都のジュノーまでは陸路では辿り着けないため、水路または空路でしか行くことができない不思議な場所に位置します。

皆さんは「アラスカ」と聞いてどんなイメージを描きますか？　大きな熊が、これまたでっか〜い鮭をくわえている、そんな絵でしょうか？

そうです、正解です（笑）。25セントコインにもその絵が描かれているほどで、それはアラスカ州の象徴と言えます。

アラスカ州は日本で例えるならば北海道に当たる、アメリカでは一番大きな州です。しかし、その広大さはTheアメリカ〜！　北海道のなんと20倍の大きさで、メインランドで一番大きなテキサス州と比べても2倍以上の大きさを誇ります。

白夜という言葉を耳にしたことがある方は多いかもしれませんが、アラスカ州は正にその現象が体感できる地です！　ホテルのベッドでぼんやりと外を眺めると、夜11時になっても辺りは薄明るく、時間の感覚が麻痺します。ほんのり薄暗くなりはじめたかな、と思った夜中の1時頃、辺りが真っ暗になることはないまま深夜3時くらいには夜が更け始めます。まさか白夜の地に降り立つことになるとは夢にも思っていなかったので、最高の体験になりました。

ADVライダー達は、7〜8月の2か月間を狙ってアラスカ州へと向かいます。雪が解け、道路が姿を現し、氷点下に達しないこの時期のみが唯一アラスカ州でのライディングに適している時期だと言えるからです。日中の最高気温は25度前後まで上がる日もありましたが、8月の中旬と言えども風は冷たく、基本的に常に肌寒さを感じました。朝と夕方以降は10度を下回る気温なので、夏の季節感は全く無かったです…。

さてさて、もうお気づきですか？　前述の文章中に出てきたホテルのベッド…。あれ？　キャンプは…??

そうなのです…。残念ながら、アラスカ州の大自然の中でキャンプをすることはありませんでした。最終回にして皆さんに、とても残念な報告をしなければなりません。

やっと辿り着いたアラスカ州初日。実は事故に遭いました。（ちなみに、この記事が書けているということは〜、私は生きています。そして元気です！）

2013年8月11日午後2時半。この日の目的地であるトックという小さな田舎町に向かう途中の、チキンという村を通過後、ようやく舗装された道路に出てほっとしたのも束の間、工事中の道路に深い砂利が敷かれた50mほど続くパッチポイント（ガタガタ道）が次々に出現。スタンディングで慎重にバランスを取りながら、一か所一か所のパッチをクリアしていったのです。が、ある一か所のかなり深めの砂利に差し掛かった際に前輪を取られ、ハンドルが左右に激しくぶれ始め、コントロールを失い、修正が効かなくなりました。恐怖の中、「このまま転倒したら、バイクに潰される！」ととっさに判断し、右へ自ら飛び下りる形で転倒しました。バイクに乗っている時にはスピードは出ていない感覚でも、もの凄い勢いで回転転倒し30mほど飛びました。その時の時速は80kmでした。意識はあり、転倒した時の事も全て記憶にありました。その時は「大したことないや」と思っていたくらいなので、自分でよっこらしょと起き上がるも、左腕が全く動かない…！　身体の至る所が痛くて、ライディングギアを見ると傷だらけ!!!

コミュニケーションシステムで私の悲鳴を聞いたマイケルがバックミラーで私の惨事を見て、大慌てで事故現場に戻って来て、過呼吸になりそうなほどの息遣いで、目を真っ赤にして震えながら「OMG、OMG、Are you okay? Oh〜, no!!!!!」と。出会ってからこんなにも最悪にテンパったマイケルを見るのは初めてで、その時の姿が目に焼き付いていて脳裏から離れません。私は「Calm down! Calm down!!（落ち着いて！）I am FINE!!! Take some pictures!!」と叱責にも似た大声でマイケルを落ち着かせ、何故か「私がしっかりしなくちゃ」ととっさに思ったのか、これもADVライディングの一環なのだと、写真を撮るように促しました。

幸いにも対向車、継続車がいなかったことから二次災害には至らずに済みました。10分程すると、通りすがりの車が何台か停車し、バイクの破損部品を道路脇に寄せたりバイクを起こしたりと、事故処理を手伝ってくれました。その中の一人の地元女性が、この日の最終目的地であったトックという最近隣の町の病院に真っ先に搬送して下さりました。レントゲンの結果、左肩4か所骨折、3か所ヒビが入るという全治6か月の怪我を負いました。

次の日、アラスカ州で2番目に大きなフェアバンクスという都市の病院で精密検査を受けるため、レッカー車に括り付けられたバイクと共に約200マイル（約320km）を移動し、フェアバンクスのホテルに到着。事故後の処理手続きや保険会社とのやりとり、今後の旅の再計画など、目まぐるしく考えなければいけないことがある中、ここにきてようやく事の重大さを再認し、涙が溢れ出しました。一年経った今、当時を振り返ると、アラスカ州で過ごしたこの2週間は、私の人生で一番情緒不安定な時間だったことでしょう。

ライディングギアとヘルメットが私の命を守ってくれたと心底実感した瞬間でした。素敵でスタイリッシュなライディングギアが沢山出回っている昨今、本当に私たちが選ぶべきライディングギアとはどんなものなのでしょうか!?

私が長い間、安全性よりも格好ばかりを気にして色やデザインでライディングギアを選んできたのは事実です（2012年のADVライディングの記事にも掲載されています）。というのも、まさか自分に限って事故に遭うなんて全く思っていませんでしたから。しかし事故を経験し、心境にかなりの変化が生まれました。

事故は予期せぬ時に、一瞬にして誰にでも起こり得ることですし、何をするにも怪我は付き物です。自動二輪車においては、それらのリスクが他の何にも増してはるかに高いということをどうか心に留め、安全に徹したライディングギアを身に付けるべきだと、今は声を大にして皆さんにお伝えしたいです。どうか皆さん、安全第一で、楽しいライディングを続けてくださいね！

さて、私の今後の旅の行方は!?!?

Ride safe as always, guys!!! "living our dream, living my journey", I will see you again soon!!

A

B

C

D

E

★Top Of The World Highway★

A：トップ・オブ・ザ・ワールド・ハイウェイの看板前で
B：まるで世界を上から眺めているかのような景色
C：辺り一帯、静寂に包まれていて幻想的です
D：広大な大地では、私達は本当にちっぽけな存在ですよね
E：このようなソフトダートがずっ〜と続きます

F

J

K

事故にあってしまった…

事故直後の現場風景です。砂利にやられ、バイクが飛びました。廃車寸前の愛馬ちゃん、かわいそうすぎる。ごめんね…。ヘルメットの傷を見て下さい。フルフェイスでなかったら…そう考えるだけでぞっとします。全治6か月…。腕が使えないので、今しかない!!と思い、一生に一度やってみたかった念願の坊主にしました

★Alaska 州★

F：やっとアラスカ州に入りました!!!
G：まだまだダートが続きます…（涙）
H：熊と鮭がモチーフとなったアラスカ州の25セントコインです
I：ホテルから眺める景色。これでも夜の9時です！　まだ全然明るい〜！
J：土埃に嫌気がさし、舗装道路が恋しいよ〜の顔です（苦笑）
K：アラスカ州のチキンという田舎町のダウンタウン。ここを出てTOKという町を目指すのですが…

G

I

H